



▲地場産材を使った各種製品



▲工芸技術の粋を極めた「傘天井」(鷹巣技術専門校)



▲農畜産物品評会に出品された見事な農産物

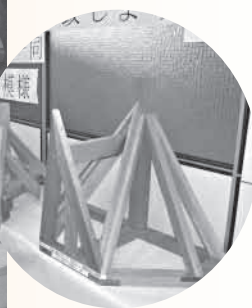


▲米内沢高校は大潟村のレースに出場したソーラーカーを展示



▲森吉牛の「インディアン焼き」が来場者に振舞われました

▶イベント「家の母ちゃん、父ちゃんをつくったものは日本一」でお祖父さんが作った神棚を紹介し、“和やかスピーチ賞”を受けた九島菜美さん(鷹巣高校3年)



▲「のみ」や「かな」など昔ながらの道具を使い、手仕事による職人の技を披露した鷹巣建設技能組合の技能競技会。全県大会と同じ課題で行われ、注目を受けていました。右の写真は、過去の全県競技会で入賞した組合員が製作した課題作品。さまざまな匠の技が使われています



▲小森川流域から産出される「錦石」を加工したアクセサリ類。地場産業としての活用も模索されています



▲鷹巣農林高校は、実習で生産した木炭から作った「木酢液」を販売

これらの事業については、4・5頁で詳細を紹介しています。

このほか、注目されていたのは、鷹巣建設技能組合(三沢正悦組合長)の組合員による全県技能競技大会と同様の課題で行われた競技の実演。同組合の青年部、壮年部の8人が、「振れ隅木、平タルキ」と呼ばれる小屋組みの一部を規定の6時間以内に完成させる、という競技に真剣な眼差しで取り組んでいました。

サブ体育館と屋外のテント村では「びっくり商業祭」が開かれ、格安商品や「やまと豚」などの特産品に財布のヒモも緩くなっていたようでした。

また、市民プール横では森吉地区で生産されている地場産牛の大試食会が行われ、集まった市民に豪快な「インディアン焼き」が振舞われました。



多くの人出でにぎわった第1回産業祭

第1回市北秋田市産業祭

会場を一本化し開催

農・工・商に市民の活力

「見直そう 活かそう 郷土の資源」をテーマとした第1回北秋田市産業祭が10月28日・29日の2日間、鷹巣体育館を会場に開催され、農・工・商全般にわたる展示品の観覧や特産品を買い求める多くの人でにぎわいました。当日の様子をご紹介します。

合併初年度の昨年、産業祭は旧町ごとに分散開催されましたが、市全体の地場産業の振興や地域経済の活性化を図るため、市や商工会、JAなどで作る実行委員会が主催し、今年から一本化したイベントとして開催されました。

今年出展した事業者の数は全部で49。館内では、JA農産物品評会や漬物、お菓子ほか特産品の販売、アパレル、木材、珪藻土などの事業者による企業製品の展示や販売、鷹巣農林高校、米内沢高校、鷹巣高校の学校活動の紹介、秋田内陸線や大野台工業団地のPR、鷹巣技術専門校の展示・販売が行われたほか、ステージでは郷土芸能「五味掘餅搦踊り(28日)」「根子番楽(29日)」の演示、子どもたちが父母・祖父母の作ったものを紹介、PRするイベント「家の母

ちゃん、父ちゃんをつくったものは日本一(29日)」が来場者を楽しませました。

今年は、市や県が市内の事業者などと連携し特産品開発に取り組んだ成果も発表されました。28日に行われたのは「渾身の皿競演会」。これは、魅力あふれる市独自の調理メニューの創作・開発などをねらいとした「第1回北秋田市新うめーもん品評会」で入賞した優秀作品をお披露目するもので、調理部門3、お菓子部門1の4事業者が入賞した作品の特長や完成までの取り組みについて紹介しました。

また、特産品の需要の拡大及び品質の向上を図ることを目的として今年度からスタートした「北秋田市特産品推奨認定制度」で推奨認定を受けた45品目の特産品が展示され、訪れる人の目を引いていました。(こ